



北東アジアにおける物流・人流の拠点を目指す 北東アジア・ターミナル構想

北海道では、経済発展が著しい中国やロシア極東などの成長力を取り込み、本道経済の活性化を図るため、本道の地理的優位性、食、自然などのポテンシャルを活かして、国内外との人や物の往来を活発化させ、北海道全体を「世界をつなぐ北東アジアのターミナル」とする「北東アジア・ターミナル構想」を平成25年3月に策定しました。

構想の策定にあたっては、学識経験者や民間の有識者を構成員とする「北東アジア・ターミナル構想検討懇話会」において議論するとともに、空港・港湾の管理者や国の機関などからも広く意見をいただき検討を行ってきました。

また、本構想は、知事公約の実行プランとして策定（平成23年10月）された「新生北海道戦略推進プラン^{※1}」の戦略の一つ「北海道グローバル・ネットワーク戦略^{※2}」を着実に進めるための主要な政策として位置づけられています。

本稿では、「北東アジア・ターミナル構想」の概要を紹介します。

1 構想策定の趣旨

本道の経済情勢が人口減少・高齢化や世界的な金融不安の影響などにより厳しさを増す一方、本道に近接する北東アジアの世界経済に占める地位が高まっています。こうした中、本道経済の活性化に向けては、北東アジアの成長力を積極的に取り込むことにより、ともに発展していくことが重要です。

このため、本道と国内外との人や物の往来を活発化させ、北東アジアにおける物流や人流の拠点となることを目指し、「北東アジア・ターミナル構想」を策定することとしました。拠点を目指す上では、本道の強みである食や自然などを活かし、国内の成長著しい北東アジアなどの市場での発展に向けて取り組むこととしています。

本構想の様々な課題の実現にあたっては、産学官が一体となって取り組むことが重要であるとともに、目

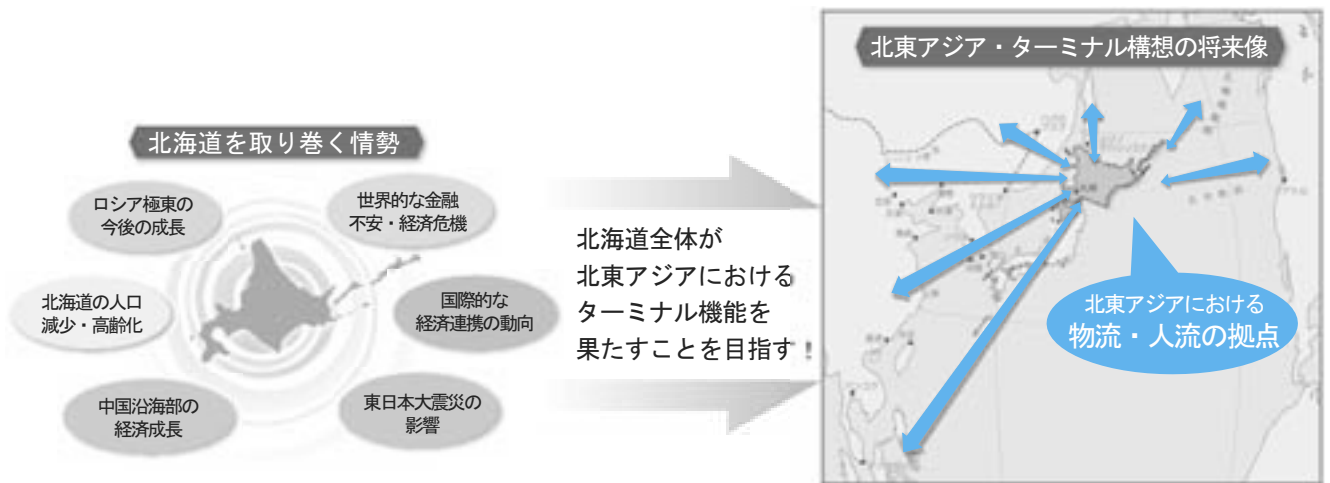
北海道総合政策部交通政策局物流港湾室

※1 新生北海道戦略推進プラン

知事が公約として掲げた政策を任期中に着実に実施していくために策定した公約の実行プラン（平成23年10月）。道民に「新生北海道」のめざす方向やその実現に向けた政策展開のプロセスを示し、協働して新しい北海道づくりを推進しようとするもの。

※2 北海道グローバル・ネットワーク戦略

地域（ローカル）に根ざし、世界（グローバル）に目を向ける「グローバル」の視点に立ち、東アジアをはじめ世界各国との交通、情報そして人材の幅広いネットワークを構築しようとするもの。



指す将来像を共有することが不可欠です。このため、本構想では、物流及び人流の拡大を図る上で、本道が有するポテンシャルを活かす将来像と、それへの道筋及びその実現に向けて必要な取組を示しています。

なお、本構想においては、中国東北部及びロシア極東地方をはじめとした北東アジアを中心に取組を展開するものとし、さらに、近年、本道との経済交流が活発になりつつある東南アジアなども視野に入れて取組を進めることとしています。

2 構想の方向性

(1) 目的

“物流・人流の拡大により北海道経済の活性化を図る”

物流・人流の拡大を通して、北東アジアの経済成長を取り込み、北海道経済の活性化につなげることを目的としています。

(2) 基本方針

“北海道全体が、北東アジアのターミナル機能を果たすことを目指す”

空港や港湾などの交流拠点の機能や拠点間ネットワークを強化し、物流・人流の拡大に資する最適輸送サービスを提供することにより、北東アジアにおけるターミナル機能を果たすことを基本方針としています。

(3) 目指す将来像

“北東アジアの物流・人流の拠点”

海上、航空、陸上輸送を一体的に捉え、拠点としての利便性の向上や迅速で円滑な物流ネットワークの形成などにより国際競争力を高め、北海道を「北東アジアの物流・人流の拠点」とすることを「目指す将来像」としています。

3 構想の実現に向けた発展への道筋

北東アジア・ターミナル構想の実現に向けては、本道が持つ独自性や優位性といった5つのポテンシャルを活かすことを基本に検討を進めることとし、そのアプローチの視点を発展への道筋として示しています。

(1) 地理的優位性

本道は、発展が著しいアジア地域やロシア極東地域を控えた要衝の地にあり、また、本道と北米やヨーロッパを結ぶ、海路・空路両方の線上に位置し、東アジアへの人や物の移動・輸送に際し、地理的優位性を有しています。さらに、「北極海航路」の運航が実用化した場合には、東アジアにおいて最も北に位置する本道の港湾は、拠点としての新たな優位性を持ちうることとなります。



北海道から世界各港へ運ばれるコンテナ
(苫小牧国際コンテナターミナル)

(2) 拠点機能の集積

本道には、国際拠点港湾である室蘭港や苫小牧港をはじめとする多数の港湾、及び、新千歳空港をはじめとする13の空港が整備され、さらに、道内各地を結ぶ高速道路網の整備が進められるなど、充実した交通インフラの蓄積は、物流機能の高度化や人流の拡大に向けて、大きなポテンシャルとなっています。

(3) 広大な土地・雄大な自然と冷涼な気候・明瞭な四季

本道の広大な土地や冷涼な気候は、企業立地の促進や農林水産業の発展に有利であり、雄大な自然や景観、明瞭な四季は貴重な観光資源となるなど、優れた地域特性を備えています。



北海道を代表する工業地帯（苫小牧東部地域）

(4) 産業の集積

道では、食産業やものづくり産業の育成・強化を推進しており、主要な都市や港湾の周辺には、食料品製造やバイオ技術、寒冷地技術など、北海道の資源・技術を活かした産業の集積が進んでいます。

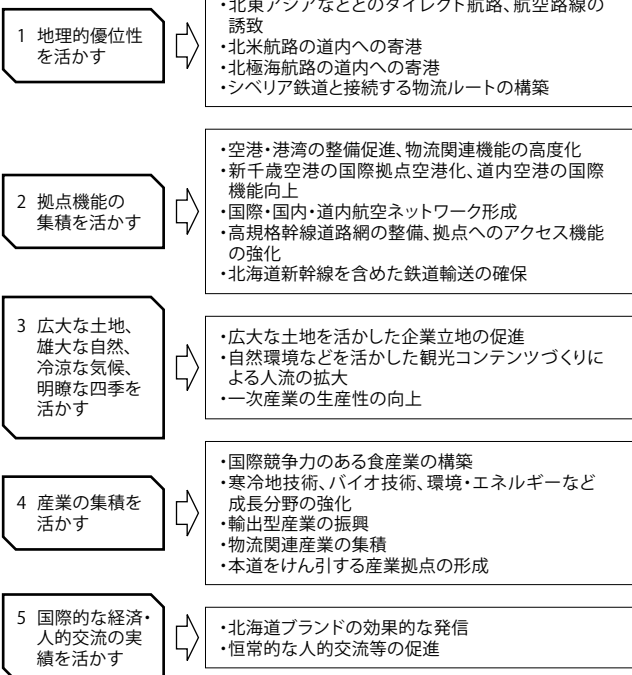
(5) 国際的な経済・人的交流の実績

道内の行政機関などによる海外主要都市でのビジネス展開や民間団体などによる国際交流など、海外との経済、人的交流の着実な積み重ねは、本道が北東アジアにおける物流・人流の拠点となるためのポテンシャルの一つとして重要なものです。

本道のポテンシャルと発展への道筋

<ポテンシャル>

<発展への道筋>



4 構想の推進

(1) 中長期の目標

本構想では、目指す将来像をより確実に実現していくため、概ね10年後を目途とする中長期の目標を設定し、それに向けての推進方策を示しています。

中長期の目標は、先に示した発展への道筋からつながる4つの分野「ネットワーク」、「ターミナル」、「産業」、「観光・交流」に絞り込み、それぞれに、国際性、地域性、緊急性の視点を重視した目標を設定しました。

(2) 中長期の目標に向けた推進方策

中長期の目標に対応する推進方策として、それぞれの分野ごとに同じ目標を共有する事業・施策を体系し、施策間の連携を図りながら取り組むこととしています。

(3) 集中推進期間における取組

中長期の目標の実現に向けて、本道の物流・人流の喫緊の課題に対応する重点的な取組を、推進方策の中から抽出し、それらを平成25年度から平成27年度までを集中推進期間として、官民一体となって推進することとしています。

5 推進体制

構想の推進にあたっては、産学官が、目指す将来像である「北東アジアの物流・人流の拠点」という目標を共有し、それぞれが連携しながらその役割を果たすよう取り組んでいくことが重要であると考えています。

このため、産学官が連携した推進体制を整備し、官民が一体となって実践的な取組を進めます。

また、道が実施する様々な施策を体系化し、効果的・効率的に取組を推進します。

6 情報の発信・共有

道民が本構想を共有し、継続的に取組を推進していくため、取組の進捗状況などについて、ホームページ

などを活用し、情報の発信に努めます。

また、海外に対し、食や観光の地理的条件など、本道のポテンシャルをアピールしていくため、構想を活用した情報発信に努めます。

7 おわりに

道では、この構想を着実に推進していくため、本構想の策定に携わっていただいた札幌国際大学濱田学長及び北海道大学大学院田村教授を顧問にお迎えし、道庁内に「北海道物流戦略推進会議」を立ち上げ、構想実現に向けて関係各部署が連携し一体となって取り組む体制を整えたところです。

今後、国や民間企業、金融機関や試験研究機関など産学官の連携を図りながら、オール北海道としての取組を進めていきたいと考えていますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

※ 構想の詳細は、北海道総合政策部交通政策局物流港湾室のホームページをご参照ください。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/bkk/index.htm>

中長期の目標と推進方策、集中推進期間の重点的取組

＜中長期の4つの目標＞

世界とつながる
ネットワークをつくる

- 海外との充実した交通・物流ネットワーク構築
- 国内・道内の円滑で効率的な輸送の確保

国際輸送に対応した
ターミナルをつくる

- 利便性向上に向けた拠点施設の機能強化
- 災害に備えた拠点施設の機能強化

国際競争力のある
産業をつくる

- 質の高い道産食品の開発
- 道内中小企業の海外展開のサポート
- 輸出拡大に資する産業の集積

世界との
人流を拡大する

- 観光地の魅力向上
- 北海道から海外への観光客増加
- 海外との経済連携・交流ネットワーク形成

＜目標に向けた主な推進方策＞

- 北東アジアや北米とのダイレクト航路の充実
- 新たな国際航空路線の開設や既存路線の拡充、再開
- フェリーなど内航航路の充実強化
- 国内・道内航空ネットワークの維持・充実、LCCの誘致促進
- 北海道新幹線の札幌までの早期完成
- 北極海航路における北海道港湾活用の調査検討

- 保管や荷役施設整備など物流機能の高度化
- 港湾のコンテナ・バルクターミナルなどの整備
- 新千歳空港や周辺地域における物流拠点機能・空港利便機能などの集積
- 空港・港湾へのアクセス道路の整備
- 空港・港湾・道路施設の耐震強化、災害時の港湾間協力体制の構築

- 海外市場に向けた道産食品の開発
- 北東アジアとの経済交流の促進による販路拡大や輸出促進
- 小口貨物の海外への効率的な輸送の検討
- 商品開発に向けた金融機関・試験研究機関などの中小企業への支援
- 苫小牧東部・石狩湾新港地域など産業拠点への企業立地促進
- 加工組立型工業や食関連産業などの集積

- 安心・快適に観光できる環境づくりや効果的な宣伝誘致活動
- 地域資源を活かした国際クルーズ船の誘致
- インバウンドとアウトバウンドの格差解消に向けた北海道からの海外観光客増加
- 中国、ロシアなどとの恒常的な文化・学術などの交流の促進
- 国際化の進展に向けた国際会議や国際イベントの誘致

＜集中推進期間の主な重点的取組（～平成27年度）＞

物流・交通機能の強化

- 中国東北地方、ロシア極東地域とを結ぶ海上ネットワークの充実
- 北海道港湾を北極海航路における北東アジアの拠点として位置づける

物流・交通機能の強化

- 国際拠点港湾の機能強化や国際バルク戦略港湾の施設整備の促進
- 新千歳空港の計器着陸装置（ILS）の双方向化などの整備
- 空港・港湾から道内各地域への高規格道路など道路ネットワークの形成

道産品の輸出拡大

- 食クラスター活動やフード特区と一体となった付加価値の高い道産食品開発
- 北海道の産業の強みを活かした道内企業の海外市場への参入の促進
- 輸送効率化に向けた小口貨物の混載輸送の促進方策の検討
- 道産食品の輸出や小口貨物の集約などにおける調整機能を果たすプラットフォームのあり方の検討

双方向の人流の活発化

- 東アジアなどへの食・文化体験などの観光PRや市場開拓
- 外国機の乗入制限緩和、地方空港などのCIQ充実、個人観光ビザ発給要件緩和
- 新千歳空港の深夜・早朝の発着枠拡大
- 各国政府観光局などと連携したアウトバウンド促進対策
- 誘致指針に基づいた国際航空路線の拡大